



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
 ニュースレター (2015年度 No.3)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC賞授賞のご報告
- ◆HCGシンポジウム2015開催のご報告
- ◆2016年総合大会開催のご案内
- ◆FIT2016 (第15回情報科学フォーラム) 投稿のご案内
- ◆HC特集号投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (VNV)
- ◆研究会活性事例の紹介

HC賞授賞のご報告

庶務幹事
遠藤守 (名古屋大)

平成27年度ヒューマンコミュニケーション (HC) 賞授賞式が、平成27年12月16日のHCGシンポジウム2015会場 (於: 富山国際会議場) にて開催され、受賞者には賞状と副賞のクリスタル盾が贈られました。HC賞は過去1年間に開催された第1種研究会 (HCS, HIP, MVE, WIT) における技術研究報告を対象に、各専門研究委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査の下に選出されます。例年、多くとも50件に1件という基準で選考しており、ヒューマンコミュニケーショングループが授与する賞のなかで、もっとも権威が高い賞と言えます。本年度は選奨規定の見直しなどが検討され、最終的には、1) 会話における音声ループバックの効果、2) 想起特性を考慮した対話的ラベリング手法、3) ヴァイオリン演奏者の心拍変動および複雑性に聴衆の存在が及ぼす影響、4) カメラとその視野外に存在する物体のキャリブレーション、5) 支援機器開発スタートアップ時における確認項目、6) 視野疑似体験システムの評価、に関する6件の発表が受賞しました。それぞれ、ヒューマンコミュニケーションという扱いにくい研究領域に対して、様々な切り口から明らかにしようとする魅力的・挑戦的な研究となっており、テーマ設定やアプリケーションの面白さ、得られた結果の興味深さ、などの観点から評価されています。賞一覽につきましては下記URLよりご覧いただけます。原稿もあわせてぜひご覧ください。

<http://www.hcg-ieice.org/2016/01/26/2015-hc-awards/>

「HCGシンポジウム2015開催のご報告」

企画幹事
川原靖弘 (放送大)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 主催のHCGシンポジウム2015は、富山市の富山国際会議場にて2015年12月16日 (水)～18日 (金) の日程で開催されました。参加者236名、研究発表114件と、参加者が過去最多となり大変な盛り上がりを見せたシンポジウムとなりました。前回に引き続き、今回のシンポジウムでも全ての口頭発表者に対してインタラクティブ発表枠が付与され、横断的かつ濃密な議論や研究交流が行われました。幅広い分野の外部の研究者による意見を得ることで、研究のさらなる発展が期待されます。今回は4件の企画セッション (「やっぱヒューマンでしょ: MVEが名称変更を議論する理由」「乳幼児研究から探る心とコミュニケーション」「旅と場所」「大規模料理レシピデータを用いた研究の最前線」) と5件のオーガナイズドセッション (「G空間×ソーシャル・サイバー・フィジカル」「旅

と場所) 「ソーシャル・イメージング」「コミック工学」「雰囲気工学」) が開催されました。現在急速に広がりを見せている研究分野の発表が一堂に会し、活発な議論や意見交換が交わされました。シンポジウム2日目には招待講演がありました。今回は、「コンパクトシティ」として広く知られている富山市の都市計画とヒューマンコミュニケーションに因み、中村雅也氏 (富山市都市整備部都市政策課長) と原島博氏 (東京大学名誉教授) を招き、それぞれ「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」「人はなぜコミュニケーションするのか? 改めて考えていること」と題してご講演いただきました。さらに「街とコミュニケーション」をテーマに両氏によるパネル討論が行われました。この招待講演は富山市民に無料開放され、街とコミュニケーションに関する両氏のトレンドを踏まえたわかりやすい内容の話は、大好評でした。また、「触れてみよう! 最新技術!」と題した併設イベントにて、インタラクティブセッションで発表されている研究についてわかりやすく紹介するデモツアーが開催され、富山高等専門学校のある志学生の方を中心に熱心なツアー参加者が集まりました。シンポジウム初日には、ヒューマンコミュニケーション賞の授賞式が行われ、2014年10月から2015年9月の間に発表された優秀な研究報告6件が表彰されました。なお、本シンポジウム開催にあたり、富山市からご後援をいただきました。また、トビー・テクノロジー株式会社、サイトセンシング株式会社、株式会社ホロンクリエイト、株式会社イノバテックの各社にもご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、次回のシンポジウムは、高知県高知市の「高知市文化プラザかるぼーと」にて2016年12月7日 (水)～9日 (金) の日程で開催する予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2016年総合大会開催のご案内

企画幹事
新井田統 (KDDI研)

2016年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。今年は福岡県福岡市にある九州大学・伊都キャンパスにおいて開催されます。

会場: 九州大学 伊都キャンパス
 会期: 2016年 3月15日 (火)～18日 (金)

最新情報につきましては下記をご覧ください。
<http://www.ieice-taikai.jp/jpn/>

電子情報通信学会では、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しております。総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) を含む5ソサイエティ1グループが一堂に会して開催されます。今年の総合大会では、3月17日 (木) に、プレナリセッションが開催されます。本セッションでは、まずオープニングセッションとして、電子情報通信学会会長の小柴正則氏による講演「次の100年: 持続可能な学会に向けて」が開催されます。次に、「サイバーセキュリティを理解する」として、内閣サイバーセキュリティセンターの藤田清太郎氏及び株式会社ラックの西本逸郎氏、情報セキュリティ大学院大学の後藤厚宏教授の登壇が予定されています。また、総合大会では例年、多数の企画セッションが開催され、今大会においても53件の企画セッションが提案されており、HCG関連では、「教育の改革に向けて」 (ヒューマンコミュニケーショングループ/プログラム委員会企画) の企画セッションが予定されており、

- ・教育の改革に向けて (3月16日 (水))
 オーガナイザ: 小粥締夫 (日本経済大学), 安浦寛人 (九州大学)

大会期間中には平成27年度学術奨励賞授賞式も行われます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

FIT2016（第15回情報科学技術フォーラム）投稿のご案内

企画幹事
新井田統（KDDI研）

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）、情報・システムサイエティ、及び情報処理学会が共催するFIT2016（第15回情報科学技術フォーラム）をご案内申し上げます。今回は富山大学五幅キャンパス（富山県富山市）において開催されます。

会期：2016年 9月7日（水）～ 9日（金）

会場：富山大学 五幅キャンパス

スケジュール：

- ・ 査読付き論文申込／投稿受付開始：2016年 3月 2日（水）
- ・ 査読付き論文申込／投稿締切：2016年 4月13日（水）
- ・ 一般論文申込／投稿受付開始：2016年 4月20日（水）
- ・ 一般論文申込締切：2016年 5月19日（木）
- ・ 最終原稿投稿締切：2016年 6月27日（月）

最新の情報は下記のURLをご参照ください。

<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2016/>

本フォーラムは、2つの学会の大会の流れを汲むものですが、従来の大会の形式に捉われずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきております。皆様の研究成果発表の場として、論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

またFIT2016では、招待講演としてクリプトン・フューチャー・メディア社取締役社長の伊藤博之氏の招待講演が開催されることが決定しました。クリプトン・フューチャー・メディア社は音声合成エンジンを採用したデスクトップミュージックの音声合成ソフトの販売を行っており、特に2007年に発売を開始したキャラクター・ボイスシリーズ「初音ミク」により一躍有名になりました。同社および伊藤氏は、第13回AMDアワード年間コンテンツ賞・優秀賞、第39回星雲賞、第66回北海道新聞文化賞特別賞、情報化月間2011経済産業大臣表彰、2013年藍綬褒章受章など数多くの賞を受けています。興味深いご講演となりますので、聴講でも是非ご参加下さい。

HC特集号投稿のご案内

HC特集号編集委員長
飯塚重善（神奈川大）

情報通信技術（ICT）の進歩によって、私たちの生活の利便性は確実に向上しています。スマートフォンの普及により、ネットショッピングやソーシャルメディア、動画配信サービスなどの利用も着実に広がり、近年では、ビッグデータ活用の進展やモノのインターネット化（IoT）、ウェアラブルデバイス等も注目されてきています。そこで、ICTの進化が私たちの暮らしをどのように変えていくかを考えるために、ヒト・モノ・コトが相互に関わり、つながるためのコミュニケーション技術の研究が望まれています。このような幅広い分野の最新の成果を横断的に議論する必要性から、ヒューマンコミュニケーショングループでは、国内への情報発信強化を目的に、和文A 特集「ヒューマンコミュニケーション」～ヒト・モノ・コトのつながりをデザインするコミュニケーション技術～を企画致しました。

本特集では、人間の心理、知覚、認知、メディア処理、人工現実感、ヘルスケア、支援技術、センシング技術までの幅広い分野からの論文を募集します。ヒューマンコミュニケーションの視点から様々な技術を統一的に俯瞰することで、価値ある生活環境構築を実現するための議論となることを期待します。幅広い分野からの多数の方々の積極的な御投稿を期待します。

■対象分野

- ・ ヒューマンコミュニケーション基礎
- ・ ヒューマン情報処理
- ・ マルチメディア・仮想環境基礎
- ・ 福祉情報工学
- ・ 発達障害支援
- ・ 食メディア
- ・ ヒューマンプロローブ
- ・ 情報の認知と行動
- ・ パーバル・ノンパーバル・コミュニケーション
- ・ その他ヒューマンコミュニケーション全般

■投稿締切

平成28年 3月28日（月）厳守

■詳細情報

詳細は以下のページをご確認下さい：

<http://www.hcg-ieice.org/2016/01/31/cfp-human-communication/>

■問合せ先

編集委員長 飯塚 重善（神奈川大学）

email: izuka@kanagawa-u.ac.jp

■編集方針

編集方針は和文論文誌Aの編集方針と同一です。ヒューマンコミュニケーション分野は新しい研究領域であることから、この分野の研究を刺激し、発展させる先導的な研究成果をいち早く採録するために、信頼性はもとより、新規性・有効性に重点を置いた編集方針を採ります。

特に、(1)研究における問題設定・着眼点・コンセプトの新しさ、(2)ヒューマンコミュニケーション分野を発展させる有用な知見の有無、(3)既存の研究・製品・サービスに対する研究の位置付けの3点を新規性・有用性の評価において判定します。信頼性に関しては、上記の主張点の妥当性を判断する根拠が客観性の下、論理的に示されていることを確認する方針とします。

ヒューマンコミュニケーションに関わる幅広い分野からの、多数の方々の積極的な御投稿を期待します。

研究会活動紹介（VNV）

VNV委員長
高梨克也（京都大学）

VNV研究会は、人間同士のコミュニケーションを支える言語（ヴァーバル）情報と非言語（ノンヴァーバル）情報の役割に焦点を当て、両者の効果的な統合によって人間とコンピュータ間のコミュニケーションを円滑にする技術、及びコミュニケーション・モデルを構築することを目指し、2005年10月に電子情報通信学会HCGの第3種研究会として設立され、認知科学、情報工学、社会学、言語学、心理学、人類学、臨床心理といった様々な分野の研究者が分野横断的な議論を行う場として活動してまいりました。

第3種研究会の使命は、新規の分野を開拓し、その進むべき方向性を確固たるものとして示していくことです。こうした新分野の開拓と確立には、既存の価値観や制度に囚われない、より本質的な議論の積み重ねが必要になります。そのため、隔月開催の「定例研究会」では、当該分野で注目すべき研究を展開している第一線の研究者や新しい試みに挑みはじめている若手研究者を毎回1～2名をお招きして、ご研究の概要をその背景や個人的な動機なども含めてご紹介いただいております。最大の特徴は、1人の持ち時間が2～4時間（！）と非常に長く、また発表途中でも随時踏み込んだ質問をするという形式を採用していることです。これによって、他の学会や研究会などでの発表とは一味も二味も違った、「これ以上ないほど踏み込んだ議論」をご堪能いただけるようになって

